

【研究ノート】

アクセスログ分析によるブログ閲覧者の情報行動

—データベースとしてのブログの利用—

Blog-Browsers' Behavior Concerning about Information With Analyzing of the Access Log

岩崎千絵美

IWASAKI, Chiemi

キーワード: ブログ; web; データベース; アクセスログ; 検索エンジン; イベント; 速報

Received: 2006.8.9 Accepted: 2006.10.20

1. データベースとしてのブログの特徴 —4つの長所—

インターネットは巨大なデータベースである。インターネットの情報資源の中でも、ブログは web¹⁾と比較して、①検索システムの有用性、②情報の整理・管理、③操作の統一性、④情報の新鮮さ、という点でデータベースとしての利用に優れている。

①検索システムの有用性

web の場合、大規模な web サイトや、知名度の高い web サイトでなければ、検索エンジンにヒットしにくい。また、ヒットしても、検索結果の順位が下位では人目に触れにくく、アクセス数を得るためには、検索エンジンの特徴に応じて技術的な工夫をしたり、検索連動型広告のように費用を支払ったりするなど、検索エンジン対策を施す必要がある。しかし、ブログの場合、そのブログシステムを提供しているサイト内ではもちろんのこと、有名ブログシステムであればポータルサイトと連携していて、記事掲載直後から「新着記事」として紹介されることがある。また、ブログシステムによっては記事内に自動的にキーワードがつけられ、それがサイト内検索に効果的である他、大手検索エンジンのキーワードと結びついて検索されやすくなるものもある。このように、ブログは人目に触れる仕組みが整っており、とりたてて検索エンジン対策やアクセスアップ対策を施さなくても、記事を掲載してだけで即座にアクセス数を得ることが出来る。

②情報の整理・管理

大抵のブログには、各ブログシステムの運営者によって決められたルールに従って、記事にカテゴリ分けの言葉を書くだけで、閲覧者自身が記事を日付順に並べたり、記事のカテゴリ別に振り分けたりすることの出来る機能が備わっている。そのため、見たい情報にスムーズにアクセスすることが出来る。

③操作の統一性

web では、サイトごとに個性的なデザインや操作性を創造することが出来る反面、デザ

インによっては目的の情報がどこにあるか分かりにくいものがある。一方、ブログはデザインの自由度が低く比較的単純なので、どこにどんなコンテンツがあるのか直感的にわかりやすく、閲覧者にとって目的とする情報へのアクセスはスムーズである。

④情報の新鮮さ

web の場合、記事やコンテンツを作り上げることと、それらをネット上に公開することの作業が分断されており、記事の追加や更新から公開までの作業がスムーズとは言い難い²⁾。また、①で示したように知名度が低く十分なコストをかけることの出来ない個人運営などの web サイトは、検索結果の順位が下位になりやすいために、人目に触れにくく、情報を新鮮なうちに閲覧者に届けることは難しい。しかしブログは記事を書いてボタンをクリックするだけですぐに公開され、それがすぐに人目につきやすくなっている。従って、一般の人たちでも情報をニュースサイト並みの速さで届けることが可能である。

以上の4点により、本稿ではブログをデータベースとみなし、アクセスログの分析を通して、ブログに書き込まれた情報が閲覧者にどのように利用されているかを調査研究していく。

2. アクセスログにみる閲覧者の情報行動

2.1. アクセスログの分析

筆者はブログや検索をサービスとした総合サイト『はてな』³⁾内にブログ『Clumsy Exodus』⁴⁾を開設、2005年8月30日に書き込みを開始している。記事内容は主に個人的エピソード、時事ニュース、映画・音楽・本のレビュー等である。開設以来、ブログのURLを知らせたのは知人3名のみで、アクセスアップのための宣伝活動は行っていない。本研究では、このブログを対象に、『はてな』で提供されているアクセスログの記録システム⁵⁾を用いて、アクセスログ分析を行った。アクセスログには、閲覧日時、リンク元などの閲覧元情報、検索語、どのページを閲覧したか等の基本的な情報行動の他、IPアドレスや、ブログ内の他のトピックも読んでいるかという閲覧者の二次的情報行動により、ある程度の個人特定や閲覧頻度というような閲覧者の情報行動が記録されている。アクセスログの分析対象は、2005年11月1日～2006年5月31日の計212日とした。期間内の総アクセス数は1,596件、うち筆者の書き込みや管理のためのアクセス202件を除く1,394件が分析対象となった。ただし、同じIPアドレスを持つ閲覧者が同じ記事を何度か読んでいるパターンについては、閲覧者がブラウザを再読み込みさせたものと意図的に二度読みしたものと区別がつかないために、別々のアクセスとしてカウントした。

アクセスログに記録されたブラウザの閲覧履歴により、ブログの閲覧元がわかるが、アクセス総数のうち、何らかの検索システムを介した閲覧は全体の48%で、他サイトや他ブログからのリンクが5%、ページをめくるなどして他のトピックを読んでいるものが3%であった。閲覧元の記録が取れなかったものは、ブックマークからの直接アクセス、またはブラウザの設定等によるものと考えられる。また、その他については、ページをカテゴリ

ごとにソートして読む等の情報行動であった。(図 1-①)

検索システムを介した閲覧において、どの検索システムが用いられたかについては、『はてな』内に設置された検索システムからの閲覧が約 6 割を占め、次いで Yahoo!や Google などの大手検索エンジン、残りは他サイトの検索システムからであった。(図 1-②)

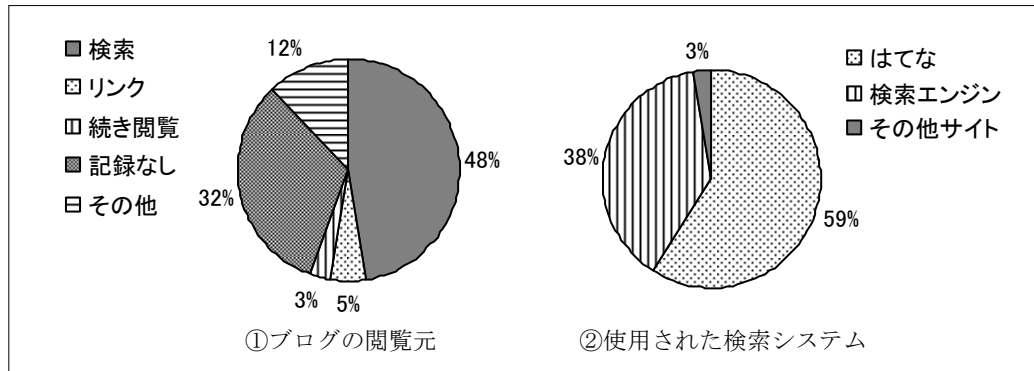


図 1 ブログの閲覧元と使用された検索システム

2.2. 閲覧者の情報行動

2.2.1. 速報性

1 章で示したように、ブログの記事は速報性が高い。次に示すのは、筆者のブログにおける 2005 年 11 月のアクセス件数である。(図 2)

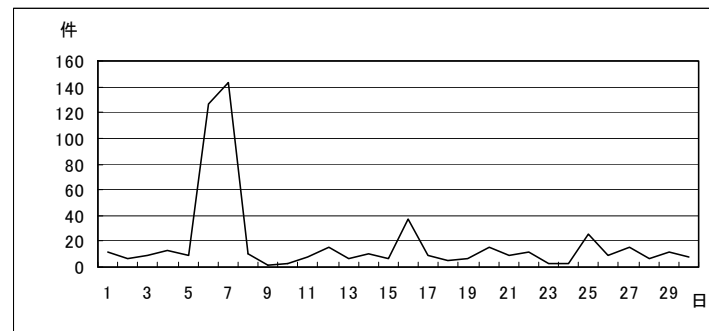


図 2 2005 年 11 月のアクセス件数

この期間の中でアクセスが突出している 6～7 日にかけての期間の記事は、人気歌手、本田美奈子氏の死去に関する内容で、死去のニュースがテレビの速報で流されてまもなくの 2005 年 11 月 6 日 22 時 10 分頃に掲載したものである。記事への最初の閲覧者の到着は記事掲載から約 40 分後の 22 時 51 分であった。図 3 は記事へのアクセス数を 30 分毎にカウントしたものである。最初の閲覧者の到着から徐々にアクセスは増加するが、270 分後を過ぎたあたりからアクセスはほとんどなくなり、11 月 8 日

表1 アクセス件数
(検索語:本田美奈子、ミス・サイゴン⁶⁾)

日	アクセス件数
11 月 6 日	97
11 月 7 日	95
11 月 8 日	3
11 月 27 日	1

以降は全く検索されなくなった。同月 27 日に 1 件のアクセスがあったのを最後に、この検索語でのアクセスはなくなった。(表 1) (図 3)

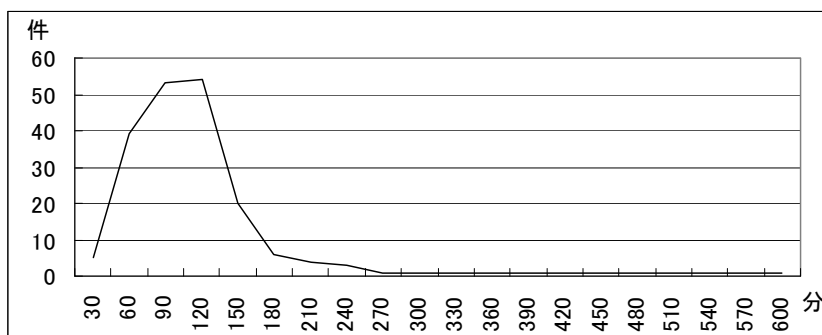


図 3 記事掲載以降のアクセス (検索語: 本田美奈子、ミス・サイゴン)

2.2.2. カテゴリとアクセス数の関係

ブログには記事をカテゴライズするためのキーワードを付けることが出来る。このキーワードを大きく 4 つに分け、その分類とアクセスログに記録された検索語との関係を調べると、図 4 のようになった。

記事総数のうち最も割合の多いのは、気持ちや考え・生活の記録などを掲載した個人エピソード系の記事であるが、エンターテインメント系に分類された芸能・タレント・映画・音楽に関する記事へのアクセスが最も多かった。

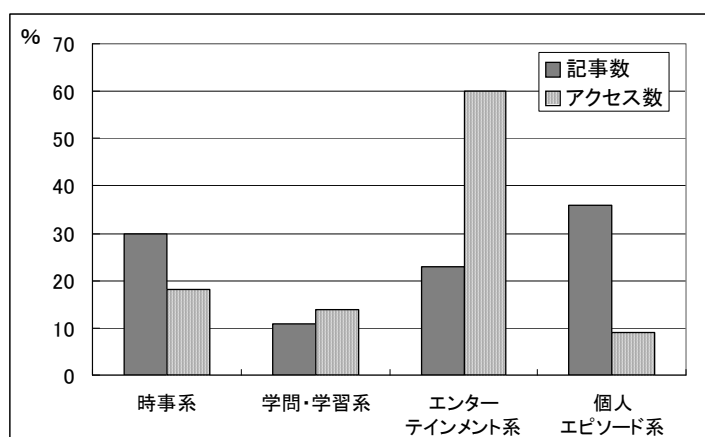


図 4 記事カテゴリ毎の記事に対する関心度

2.2.3. イベント性

2.2.1 及び 2.2.2 で、ブログ閲覧者の情報行動は何らかのイベントに反応することを示したが、以下の事例はそれを実験的に確かめたものである。実験は、その日の話題になりそうな記事を掲載し、アクセスがどのように変化するかを調べるという方法で行った。2005 年 11 月 25 日、ホラー映画『灰暗い水の底から』⁷⁾が 21 時からテレビで放送されるのに先駆けて、同日 13 時 59 分、ハリウッド映画『ダーク・ウォーター』⁸⁾のレビューを掲載した。『ダーク・ウォーター』は『灰暗い水の底から』のハリウッド・リメイク版であるため、このオリジナル映画『灰暗い水の底から』に対するアクセスが増えると予想されたからである。その結果、記事の掲載から約 40 分後に最初の閲覧者が到達した。アクセスそのものは少なかったものの、短時間で一定のアクセスがあり、放送終了後の 23 時台に 3 件のアクセスを記録して以降、次第に検索されなくなっていった。(図 5)

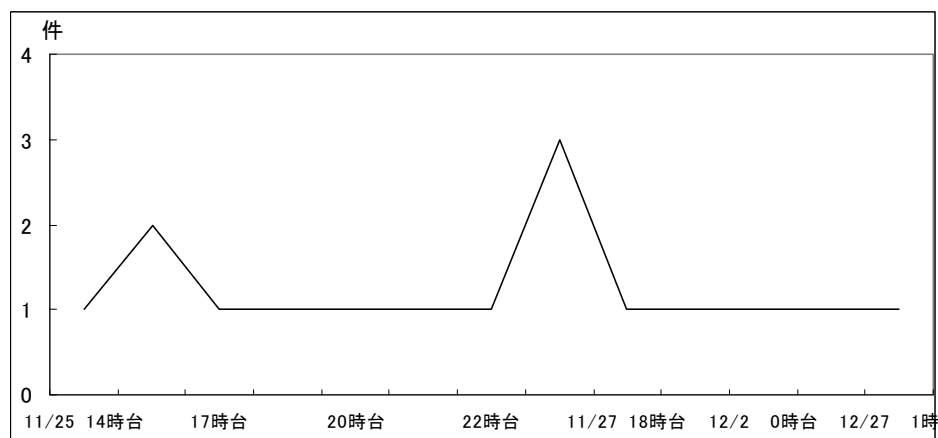


図5 記事掲載以降のアクセス
(検索語: ダーク・ウォーター、仄暗い水の底から、黒木瞳)

2.2.4. 社会的イベント性と情報行動

以上の結果により、ブログへのアクセスは社会的イベントと連動し、速報的であって一過性の傾向が見られることが理解出来た。これは、記事が掲載されてから日数が経過するに従って、人々の関心が薄くなり検索されることがなくなる、もしくは同じテーマを扱う記事が増加し検索結果から外れるか、検索順位が下位になってブログにたどりつきにくくなったと考えられる。従って、ブログへのアクセスは情報量の多さではなく、その時点でのトレンドや人々の関心が高い情報に集中するということが出来た。

2.2.5. イベント性のない記事

一方、社会的イベントとは連動せず、時々検索・閲覧されている語が存在した。これらの検索語に対するアクセスは少なく、短期的・集中的・一過的ではないが、対象期間内において、継続的に検索されている。対象ブログ中では、「引用文献」「書き方」「論文」「シカゴスタイル」「バンクーバースタイル」や、「アインシュタイン」「電話帳」「ディスレクシア」「学習障害」等の検索語がそれに該当した。(図6)



図6 「引用文献」に関する検索語でのアクセス数
(検索語: 引用文献、書き方、論文、シカゴスタイル、バンクーバースタイル)

2.3. 読み手にとってのブログ

閲覧者のブログへのアクセスは、社会的イベントに反応し、特にテレビや映画など他メディアとの連動性が高い。また、速報的で一過性である傾向が強く、そのほとんどは検索システムから短期間のうちにやってくる。そして時間の経過と共に、同類の記事が増えて検索結果の順位が下がり、人々からの関心も薄れ、次第に検索されなくなるという特徴をもっている。このようなことから、ブログは、他メディア等で話題になっている出来事に関する情報を、即座に、深く知るための補完的な役割を果たしていると考えられる。

一方で、アクセス数は非常に少ないが、イベントとは無関係に時々検索されるというアクセスパターンが存在した。このようなパターンに対する記事は、多くの人が関心を持つような社会的イベント性の高いものではないために、速報的・一過的なアクセス傾向はもたないが、インターネット上にこのような情報が少なく、記事掲載から時間が経過していても、検索結果順位の上位にあがりやすかったことが考えられる。

3. 今後の展望

ブログの記事は、掲載日付という時間軸を基準として情報を蓄積していく。ブログの時間軸は、瞬間に情報が古びていく『2ちゃんねる』のような実況型コンテンツより緩やかであるが、web よりも速報性に優れている。このような既存の技術を応用した新しいツールはまだ歴史が浅く、研究も十分ではない。今回取り上げることの出来なかったブログ開設者の情報行動、ブログ開設者と閲覧者との関係等、継続して研究調査を行うことで新たな知見が得られよう。

註

- 1) ブログは web の活用技術のひとつであるが、本稿では従来の形式のものを web もしくは web サイトと呼び、ブログと区別した。また本稿では SNS (Social Networking Service) は対象としていない。また、ここで言う web サイトとは、ニュースサイトやポータルサイトなどを除いた、個人や小規模団体のサイトを指す。
- 2) コンテンツを編集するための機能とコンテンツを転送する機能が統合されたソフトもある。
- 3) はてなダイアリー <http://d.hatena.ne.jp> 2006/6/25 存在確認
- 4) Clumsy Exodus <http://d.hatena.ne.jp/rubbylove> 2006/7/31 継続中
- 5) アクセス解析ツールは、『はてな』が提供する有償サービスのひとつである。
- 6) 舞台『ミス・サイゴン』は本田美奈子氏の主演代表作である。
- 7) 中田秀夫監督『仄暗い水の底から』(2002 年日本映画)
- 8) ウォルター・サレス監督『ダーク・ウォーター』(2005 年アメリカ映画)